

交流を生かした読書指導

—アメリカにおけるIn2Booksの2003年頃の活動を例として—

Teaching of reading with pen pal: The In2Books project around 2003 in the United States

足 立 幸 子

1. 本稿の目的

戦後の国語科教育における読書指導は、読解指導との対比から、「適書を適者に適時に」手渡すことを基本的原則として（滑川，1956，p.479），個人による生活に根ざした読書を推奨してきた。しかし現在では、学校において交流を読書指導にどのように生かしていくかが、読書指導研究の課題の一つになっている。

最近盛んになってきているブックトークやピリオバトルや読書郵便などは、交流を取り入れた読書指導と言える。これらも、他人に紹介するという理由から自分の読書を確かなものにし、読書をしながら考えたことをまとめ直すことができ、効果的な方法である。しかし、その本を読んだ人が読んでいない人に紹介するという形であり、読んだ者同士の交流を生かした読書指導は十分に研究されているとは言えない。

そこで、本稿ではこのような現状を踏まえて、読んだ者同士の交流を生かした読書指導を調査することを目的とする。取り上げるのは、アメリカで行われたIn2Books（イントゥーブックスと発音）である。英語圏には、Paired Reading（ペアになった読み）という2人組の交流を行う読むことの指導があるが、これは、読むことが苦手の児童が音読をし、得意な児童がそれを聞いて間違いがあったら訂正を促すという方法である。苦手の児童に音読の技能を身につけさせるものであって、日本語でいうところの読書の交流ではない。それに対して、このIn2Booksは児童がパートナーになっている大人と手紙を通して交流するプロジェクトであり、読書の交流であると言える。また、このプロジェクトは学級担任の教員研修も含み、どのように読書指導をしていけばよいかの示唆に富んでいると考えられる。以下、In2Booksの概要・歴史、読書指導の内容、読書指導の評価、プロジェクトの効果について、調査し記述していくこととする。

2. In2Booksの概要・歴史

(1) In2Booksの概要

In2Booksとは、アメリカのワシントンDCにおいてNPOが始めた読書プロジェクトであり、またこのプロジェクトを進めているNPOの名前でもある。このプロジェクトでは、小学校2年生から5年生の児童が、物語（フィクション）、社会科の本、伝記、民話、理科の本、の5つのジャンルの本を読み、同じ本を読んだボランティアの大人（ペンパル）と手紙交換を行う。本を読んで手紙交換をするまでを「サイクル」と呼ぶ。大人の方は個人単位でボランティアに登録すれば参加できるが、児童の方は、学級単位で受け付けられる。学級担任は、このプロジェクトに参加する際に教員研修会に出席し、プロジェクトの動かし方を学ぶ。それ

と同時に、読むこと（リテラシー）を指導する方法、ジャンルの特徴を指導する方法、児童の手紙を評価する方法などを研修する。

（2）In2Booksの歴史

In2Booksは、参加者を増加させながら、発展してきている。次に翻訳・引用するのは、現在公開されているインターネット上のIn2Books（現在の団体名はIn2Books-ePals）のサイトに掲載されているIn2Booksの歴史である。

1997年～2006年

- ・1997年 Nina ZoltがIn2Booksを創設する。
- ・1998年～2000年 ワシントンDCの小学校10学級で、In2Booksが実施される。
- ・1999年～2000年 Westat という研究映画においてIn2Booksが取り上げられ、In2Booksが書くことの技能を改善し、より高次のレベルの思考スキルを育てていることが確認されたという評価を受ける。
- ・2000年～2001年 In2Booksプロジェクトが教員研修プログラムとしても始められる。そのプログラムに参加した教師は、この活動を教員研修ポイントとして数えられることになる。
- ・2003年～2004年 In2Booksが拡大され、6000人以上の児童が参加する。このうち、60%はワシントンDCの小学校の児童である。
- ・2004年 拡大研究レポートが発表される。この研究では、SAT-9という標準テストにおいて、In2Booksのプログラムに参加した小学校2年生から4年生の児童が、同じ校区のプログラムに参加していない児童よりも有意に高い得点をとったことが報告される。
- ・2005年～2006年 In2Booksがさらに拡大され、ワシントンDCのみならず、イリノイ州シカゴ市や、バージニア州ラウン郡で実施される。

2007年～2012年

- ・2007年 In2Booksは、ePalsと結合し、ePals会社及びePals基金を設立する。In2Books-ePalsのミッションは、協同的学習経験を励行し、困難な地域においても世界的にこの学習を可能にしていくことである。
- ・2007年～2008年 In2Booksでは、読む本を除くすべてのプログラムをデジタル化する。
- ・2008年～2009年 すべてをデジタルにしたIn2Booksが、アメリカ30州の130以上の学級で実施に成功する。
- ・2010年～2011年 In2Booksは、教師の指導者プログラムとして実施され、ボランティアと教師のためのオンライン学習コミュニティを提供する。

このIn2Booksの歴史の記述は、ワシントンDCなどの都市部の学校（学級）で行われていた2006年までと、オンライン学習を中心にした2007年以降に大きく分けられている。

本稿では、2003年～2004年度の活動を取り上げることとする。理由としては4点が挙げられる。1点目は、本稿の関心が、オンライン学習ではなく、学校で行われる読書指導にあるためである。2点目は、In2BooksがワシントンDCで発展していく中で、2003～2004年度は最も安定した実践が展開された時期であるためである。3点目は、この頃に多くの研究者がアドバイザーとして関わり、In2Booksプロジェクトの効果測定が行われたためである。4点目は、筆者は2003年10月にワシントンDCのIn2Books事務所を訪問することができ、多くの資料を手に入れることができたためである。その資料のほかに、公刊されている論文や、行われた学会発表の配付資料などを基に、以下の記述を進めていく。

3. In2Booksの読書指導の内容

先述のとおり、In2Booksの特徴の一つは、手紙交換の機会を与える単なる課外活動ではなく、授業の一環として位置づけられており、どのような指導をすればよいかという教員研修プログラムまでが組まれていたことである。ここでは、教員用のガイドブックより、In2Booksの読書指導の内容を見ることとする。

(1) 入手できたガイドブック

入手できたガイドブックの一覧を表1として示す。ガイドブックは2種類に分けられる。そのことは、シリーズ名に現れている。

1種類目は、literacy guide というシリーズ名の、読み書きの指導法のガイドブックである。整理番号1の「Comprehension Strategies (読解方略)」がその典型である。整理番号2の「Introducing In2Books (In2Booksの紹介)」は、具体的な5冊の本を児童が読むサイクルに入る前に、In2Booksとはどのような活動をするのかを児童に紹介する導入サイクルである。整理番号7の「The In2Books Rubric (In2Booksのルーブリック)」は、手紙を評価する方法を示したものである。これは、第4節で詳しく取り上げる。

2種類目は、genre guide または book guide というシリーズ名のガイドブックである。筆者が2003年の10月にIn2Books事務所を視察した際に入手できたのは、2003年～2004年度(アメリカの学校は通常9月頃に開始され6月頃に終了するため、年度は2年に渡った表記をする) genre guide であり、サイクル1の「Fiction (フィクション)」(整理番号3)と、サイクル2の「Informational Books: Social Studies (情報の本:社会科)」(整理番号4)しかなかった。そこで、前年度にあたる2002年～2003年度のサイクル4の「Folktales (民話)」(整理番号5)、サイクル5「Science Text (理科のテキスト)」(整理番号6)のガイドブックを、参考としてもらうことにした。前年度はbook guide というシリーズ名であったが、複数の本を紹介するというのではなく、ジャンルの特徴やその特徴に基づいた指導の仕方を説明するというをより明確にするために、2003年～2004年度はgenre guide というシリーズ名になったのであろうと推測する。

表1 入手できたガイドブック

整理番号	タイトル (内容)	シリーズ名	サイクル	巻	号	年	月	総頁数
1	Com prehension Strategies	literacy gu ide	—	3	3	2003	9	20
2	Introducing In2Books	literacy gu ide	導入サイクル	3	1	2003	8	24
3	Fiction	genre gu ide	サイクル1	3	2	2003	9	36
4	Inform ational Books: Social Studies	genre gu ide	サイクル2	3	3	2003	10	36
5	Folktales	book gu ide	サイクル4	2	4	2003	3	28
6	Science Text	book gu ide	サイクル5	2	5	2003	4	24
7	The In2Books Rubric	literacy gu ide	—	4	2	2004	9	48

(2) 整理番号3「Fiction (フィクション)」(第3巻第2号, 2003年9月)の内容

サイクル1にあたるフィクションのガイドブックの内容は、次のようになっている。

1頁	表紙	20～22頁	読書中に使用する方略
2～3頁	背景情報	23～29頁	読書後に使用する方略
4～5頁	フィクションサイクルの指導計画	30～32頁	家に持って帰る手紙
6～7頁	目標と方略の一覧	34～35頁	フィクションの図書例
8～19頁	読書前に使用する方略	36頁	引用文献

1頁の表紙では、最初のサイクルとして、In2Booksでフィクションを読むことの意義が書かれている。

2～3頁は、フィクションというジャンルの定義や特徴が述べられている。

4～5頁は、指導計画を立てる方法について概説されている。

6～7頁は、学年ごとに、「テーマ」「主発問」「補助発問」「キーワード」「ジャンルとテキストの特徴」「読書方略」「作文方略/技能」の7項目について、何を目標とすればよいのかが示されている。

8～29頁では、読書前・読書中・読書後に、フィクションを読む人はどのような方略を用いているかが概説されている。読書前に使用する方略としては①方略を使用する読者になること、②段階を設定すること、

表2-1 In2Booksにおける手紙文評価のルーブリック(In2Books Rubric)
(In2Books、2004、pp.6-7.より。翻訳は足立2015、pp.18-19.を再編成。)

	1	2	3
本についてのコミュニケーション			
理解	子どもが本を読んだかどうかははっきりとしない。	子どもが本を読んだことのうち詳細については示されているが、主題を理解しているかどうかははっきりとしない。	本についての主題を特定したり説明したりするためにかなり詳細なところをレポートしている。
本についての思考	本とのつながりが見られない。	本との個人的な関係が1種類示されている(例えば、共通なことまたは異なること、意見または評価の表明、学習したことの記述など)。	1種類よりは多くのしかし単純なつながりが示されている(例えば、テキストと自分、テキストとテキスト、テキストと世界)。
ペンパルとのつながり	「○○さんへ」のような冒頭の部分にだけペンパルのことが書かれている。	ペンパルを認めることを示す表現がある(個人的な質問を行ったり個人的な質問に答えたりすること、個人的な情報を伝えること、感謝の意を示すことなど)。	本についてペンパルと直接的にコミュニケーションしている(一般的に本に関すること、読んでの質問・コメント・応答に関することなど)。
言葉や文章構成の使用			
構成	書くことへの意識の流れは見られる。手紙は全般として構成がない。	書いてあることが意味をなし、1つもしくは2つの考えのクラスター(2文かもしくはそれ以上の数の文と一緒に書かれている)が見られる。	いくつかの(2つもしくはそれ以上の)段落らしき考えのまとまりが示されている。全体としては手紙の構成(はじめ、なか、おわり)が出現する。
文	単文かつ／または重文の使用が認められる。全体として繰り返しを感じさせるものとなっている。	主に単文かつ重文の使用が認められる。文の長さや文頭にいくつかのバリエーションが認められる。	単文と重文は大部分は正しいものである。複文が試みられているが、成功していない。
語の選択／語彙	本と親密性のある語は使用されない。	本に由来するいくつかの(3つかそれ以上の)語や句や名前が示されている。	本の考えを表している語彙が使用されている。
表記	単純な綴り・句読点・文法のミスが頻繁にあり、読者にとって読みにくい。	単純な綴り・句読点の問題があるが、正しい文法であることが分かるものである。	単純な綴り・句読点・文法の大部分は正しい。

表2-2 表2-1のつづき

	4	5	6
本についてのコミュニケーション			
理解	本のテーマと（または）ジャンルについて何か主題につながるものを示している。	より深く理解している証拠がある。主題とテーマが入念に詳細につながる形で示されている。ジャンルが反映されているかもしれない。	手紙は、主題・テーマ・意味のある詳細についての議論をよく発達させた思慮深いものとなっている。ジャンルについての深い熟考と全般的な読みを示している。
本についての思考	本の主題やテーマについて関連して、つながり（テキストと自分、テキストとテキスト、テキストと世界）が示されている。	詳細を含んだ入念な本の主題やテーマについて、つながり（テキストと自分、テキストとテキスト、テキストと世界）が示されている。	手紙は、本の主題やテーマへの幅広く深いつながり（テキストと自分、テキストとテキスト、テキストと世界）を理解していることを示している。
ペンパルとのつながり	主題やテーマに関連する2つ以上の質問・コメント・応答を含んで、ペンパルと本についてコミュニケーションしている。	本の主題やテーマに関連して詳細で考え深いコミュニケーションが手紙の一部に示されている。	手紙全体を通して、本やテーマをめぐる個人的な対話が示されている。個々の本を超えて読者との関係についての謝意が示されているかもしれない。
言葉や文章構成の使用			
構成	段落が常に組織化されている。主に同じ話題についての文が集まっている。全体として手紙の構造は明白である。	段落は段落の話題に焦点を当てた情報によって構成されているが、まだ限られている。段落間のつながりをつけようとしている証拠が見られる。手紙は始めから終わりまでが構成されている。	段落は詳しくよく発達している。段落間の流れも言語の流れとして自然である。テキスト全体が効果的に構成されている。
文	単文と重文は大部分は正しいものである。いくつかの成功した複文が見られる。	正しい単文・重文・複文の例が多い。手紙の中に異なる文構造の使用が加わってくる。	単文・重文・複文をほとんど間違わずに使用する。読者の興味や効果にそって文構造を変化させたり繰り返したりするかもしれない。
語の選択／語彙	本の主題・テーマ・ジャンルなどに関連した語彙・語句が使用されている。	本に関係する抽象的な考えやテーマやジャンルを議論するために語彙を拡張している。	手紙に現れた語彙は、本やそれに関するテーマ及びジャンルの語彙を制御して使用されていることが分かる。語は作者への理解を読者が構築するために選択されている。
表記	大部分は正しい。いくつか（3つかそれ以上の）の部分でより複雑な綴りや複雑な句読法を試みている。	文法、複雑な綴り、複雑な句読点についても誤りはほとんどない。	誤りはなく、手紙の書き手が、より複雑な綴りパターンや、句読法や、文法を運用できることが示されている。

読書中に使用する方略としては③本を知ること、読書後に使用する方略としては④本について話し合うことなどが概説されており、これらについてどのように児童に行わせればよいか分かりやすく示されている。

30～33頁は、家に本を持って帰る際につける手紙（児童が書く）の書式が示されている。

34～35頁は、このプロジェクトのサイクル1で用いるフィクションの本の紹介である。

36頁は、上記の指導方法についての引用文献一覧である。

(3) 整理番号6「Science Text (理科のテキスト)」(第2巻第5号, 2003年4月)の内容

サイクル5にあたる理科のテキストのガイドブックにおける内容は、次のようになっている。

1頁	表紙	10～16頁	3年生のための指導単元
2～3頁	背景情報	17頁	家に持って帰る手紙(すべての学年)
4～9頁	2年生のための指導単元	18～23頁	4年生のための指導単元
		24頁	引用文献

表紙でサイクル5で理科のテキストを読む意義について述べられているところや、2～3頁で情報を伝えるテキスト(中でも理科のテキスト)のジャンルの特徴が述べられているところは、フィクションと同様である。

異なるのは、各学年で指導単元を示しているところである。しかし、その内容を見てみると、それぞれの単元で、読書前・読書中・読書後に何を行えばよいか、それぞれの活動には何分ぐらいかかるかということが示されており、やはりフィクションの場合と同じようになっている。例えば2年生では「蝶」についての本を扱うのだが、読書前の活動として「虫」とは何かを確認すること(20分間)及び新しい語彙を紹介すること(10分間)があり、読書中の活動としては読みながら「変態」の4段階(卵、幼虫、さなぎ、成虫)を押さえること(60分間)や家に持ち帰って読むこと(1～2時間)がある。また、読書後の活動として、まとめを行うこと(40分間)や、学級で蝶を飼って観察記録をつけること、学んだことについて質問に答えること(15分間)などがあげられている。これらに加えて、書くことにつなげることとして、詩を書いたり(2単位時間)、段落を書いたり(2時間)する。最後には、書いた手紙を評価することがあり、ほかの蝶に関する本の案内が付されている。

4. In2Booksの読書指導の評価

以上のように、児童は1年間に5つのジャンルの本を読み、それぞれについて手紙を書く。それぞれの手紙を、どのように評価したらよいかを示したものが6段階のルーブリックである(本稿pp.4-5の表2, In2Books, 2004, pp.6-7.より。翻訳は足立, 2015, pp.18-19.を再編成した)。

(1) ルーブリック評価の利点

まず、ルーブリック評価の利点として、次の6点が挙げられている。(In2Books, 2004, p.1)

- ・ハイステイクテストにはない、本物の評価を行うことができる。
- ・児童がどの方略や技能を獲得したか、また、児童の成長の助けになるようにどのような指導段階を踏めばよいかということを基本にして評価することができる。
- ・それぞれの児童の学年を越えた成長を長期的に評価することができる。
- ・児童と家族へ見通しを伝えることができる。
- ・共通の学習指導の語彙を作り出すことができる。
- ・強化しなければならない領域や様々なアプローチを特定することができる。

これらは、ルーブリックの一般的な利点であるが、本実践が、いわゆるハイステイクテストではなく、実際の活動をパフォーマンスとして評価しているということを示すものである。

(2) ルーブリックの基本構造

ルーブリックの基本構造は、本について考えを交流することについての評価と、手紙における「作文」としての評価の2つの側面がある。前者については「本についてのコミュニケーション」とし、後者については手紙文の「言葉や文章構成の使用」とする。それぞれどのような領域が設定されているのかを述べる。

① 本についてのコミュニケーション

本についてのコミュニケーションには、3つの領域がある。1つ目は、本そのものを読んで内容が理解できたかどうかという「理解」領域である。特に重視されているのは本の主題が理解できるかどうかということであり、得点が高くなると、ジャンルと合わせて本の主題・テーマについて考えられているかどうか重視される。2つ目の領域は「本についての思考」である。本（テキスト）と自分、本と本、本と世界のつながりについて思考しているかどうかを問うものである。3つ目の領域は、交流の相手であるボランティアの大人（ペンパル）との交流について評価する「ペンパルとのつながり」である。交流の質が本の内容（主題）に関連して、高まっていかなければならない。

② 言葉や文章構成の使用

手紙の文章としての質を評価するものである。アメリカの作文教育における評価の伝統を踏まえて、4つの領域が設定されている。1つ目は「構成」である。段落相互の関係や、手紙文全体の構成について問うものである。2つ目の領域は「文」そのものである。英文では、文の複雑さの指標として単文・重文・複文がある。これらがどのように使用されているかを見る。3つ目は「語の選択／語彙」である。単語（あるいは複合語）レベルで手紙を検討する。4つ目の領域は「表記」である。特に綴りのミスがないかどうか、複雑な綴りができているかどうかを見る。

以上のことから分かることは、In2Booksでは、単に本が読めるということだけでなく、それを踏まえて様々な思考をめぐらせたり、書いたりする能力、すなわち思考力や表現力も含めて評価しているということである。

(3) ルーブリックの段階

In2Booksのルーブリックは6段階である。日本で評価基準というと、国立教育政策研究所が出している「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」のように、3段階の設定が一般的である。しかし、アメリカでは6段階のルーブリックは一般的である。例えば、国内統一テストNAEP (National Assessment of Educational Progress, ネイプと発音する) の作文Writingのテストでも、Excellent, Skillful, Sufficient, Uneven, Insufficient, Unsatisfactory という6段階を設定している。

また、このルーブリックの特徴は、In2Booksに参加する2年生から5年生が、共通して使用できるという点にある。このために6段階が有効である。表3は各学年で目安となるルーブリックの得点である。目安としては各学年3段階が配置されていることが分かる。しかし、このルーブリックを6段階としたことで、複数年In2Booksに参加した児童は、その発達を評価していくことができるのである。

表3 学年別の目安となるルーブリックの得点

学 年	目安となるルーブリックの得点					
2年生	1	2	3			
3年生		2	3	4		
4年生			3	4	5	
5年生				4	5	6

5. In2Booksプロジェクトの効果

In2Booksのプロジェクトは、2003年頃の実践を元にして、いくつかの論文にまとめられている。現在のIn2Books-ePalsのウェブサイトには、“The Reading Teacher”という国際リテラシー学会（当時は国際読書

学会) 機関誌の論文(Teale & Gambrell, 2007)と, “Phi Delta Kappan” という雑誌に掲載された論文 (Teale, Zoltら, 2007) が紹介されている。

そこで, ここではTeale & Gambrell (2007)に基づいて, In2Booksプロジェクトの効果を検討する。

この論文で取り上げられているのは, Goldman (2004) の効果測定である。これは, SAT-9というテストの得点がIn2Booksに参加していた児童とそうでない児童とどのように違っているかを研究したものである(筆者未見のため, 以下の引用・要約はTeale & Gambrell 2007に基づく)。表4は, SAT-9の読解力テストの平均得点をIn2Booksの参加状況別に, 示したものである。

表4 In2Books 参加状況別のSAT-9 読解力テスト平均得点
(Teale & Gambrell, 2007, p.731のTable 1を翻訳・一部変更)

学年	複数年参加	SD	初参加	SD	参加全体	SD	不参加	SD
2年	584.5 *	36.5	580.5	36.7	582.3	36.6	578.7	35.6
3年	626.9 ***	47.7	612.9 *	48.2	612.9 ***	48.4	607.7	40.9
4年	637.3 ***	46.1	637.5 *	44.3	637.4 **	45.1	626.8	39.2

***p<.001

**p<.01

*p<.05

複数年In2Booksに参加している学級, 2003年~2004年度に初めてIn2Booksに参加した学級, これら年数に限らずとにかく参加している学級, 不参加の学級別である。3年生・4年生で平均得点に有意差が認められたが, 特に複数年参加している学級の方が高得点の傾向が顕著であった。

プロジェクトのこの成功について, 論文では次の点が効果を生んだ要因であると考察している(Teale & Gambrell, 2007, pp.733-737.)。数ページに渡って論じられているものを, 実践面と原理面の二つの側面から, 箇条書きにまとめて箇条書きにして示す。

実践面

- ・児童にとって現実的で重要な問題を扱い, 質が高く, 年齢に適合した, 様々なジャンルの魅力的な本を読んだこと。
- ・このプログラムの本を繰り返し読んだり, その本について話し合ったりしたこと。
- ・ペンパルに送る本についての手紙を作成するために, 書くことのプロセス・アプローチに取り組んだこと。
- ・教員が並行して教員研修を行ったこと。

原理面

- ・本物で挑戦的な課題であったこと。
- ・学習共同体が機能したこと。
- ・読書への取組があったこと。
- ・プログラムに持続性があったこと。

6. まとめと今後の課題

本稿では, In2Booksという, 小学校2年生から5年生児童とボランティアの大人との交流を通じた読書指導プロジェクトを検討した。同じ本を読んだ二人が手紙交換という交流を行い, 児童が読書力・思考力・表現力を身に付けていく方法であり, ルーブリックによってその進捗状況を評価できる構造になっていることが確認できた。また, 本プロジェクトは, ジャンルに基づいたアプローチをとり, それぞれの本の特徴をとらえながら理解する力をつけること, ペンパルとの交流を通して本と世界とのつながりについて意識しながら読んだり書いたりしていけることなどが特徴としてとらえられた。これらの特徴は, 日本の文脈

においても、有益なものであると推察される。

日本では、教科書を用いた読解指導が主流であるため、このような本を用いた学習指導はなかなか行われていない。しかし、アメリカの読むことの教育の歴史を振り返ってみても、1990年代に、Literature Based Approach と呼ばれる「本」を用いたアプローチが盛んになったということが言える。さらに、最近ではジャンルによるアプローチも盛んである (Fountas & Pinnell, 2012 など)。このような歴史をふまえると、我が国においても、ペンパルとの手紙交換によって交流することで、複数のジャンルの本を持続的に読んでいくという方法は、読書指導として意義のあるものである。

今後の課題としては、我が国でもこのような交流を生かした読書指導が可能であるか、実践的な研究を行うことである。特に、In2Booksのようなループリックの評価が、読書指導を支えるものになりうるかどうか、実践的に研究していきたい。

文献

- 足立幸子 (2015) 「読者反応を利用した小集団の読書指導におけるループリック評価の試み」新潟大学教育学部国語国文学会編『新大国語』37, 17-37.
- Fountas, I. C., & Pinnell, G. S. (2012). *Genre study: teaching with fiction and nonfiction books*. Portsmouth, NH: Heinemann.
- Goldfeder, E., Wang, W., & Ross, S. (May, 2003). In2Books teacher survey: qualitative and quantitative synthesis. *Center for Research in Educational Policy*.
- Goldman, S. R. (2004). *Evaluation report: SAT-9 Reading Test achievement levels – District of Columbia Public Schools: In2Books classrooms compared to other DCPS classrooms, 2003-2004 school year*. Chicago: University of Illinois at Chicago Center for Learning, Instruction, and Teacher Education.
- In2Books (2003a). Cycle five Science text. *In2books book guide, 2(5)*.
- In2Books (2003b). Cycle I Fiction. *In2books genre guide, 3(2)*.
- In2Books (2004). The In2Books rubric. *In2books literacy guide, 4(2)*.
- In2Books-ePals (2016). The history of In2Books. In2Books-ePals Website https://in2books.epals.com/content.aspx?caid=I2BCorp&divid=I2B_History (2016年6月14日閲覧)
- 滑川道夫 (1956) 「読書指導」『国語教育辞典』朝倉書店, pp.478-480.
- Teale, W. H., & Gambrell, L. (2007). Raising urban students' literacy achievement by engaging in authentic, challenging work. *The Reading Teacher, 60(8)*, 728-739.
- Teale, W. H., Zolt, N., Yokota, J., Glaswell, K., & Gambrell, L. (2007). Getting children In2Books: Engagement in authentic reading, writing, and thinking. *Phi Delta Kappan, 88(7)*, 498-502.